月刊 反トマホーク通信

No.16
1987.2.20
定価 100円

東京都渋谷区渋谷2-5-9　パル青山502　トマ喰い虫社　☎03(498)6095

われらが 団結の精神 チーム・スピリットを…

二月十九日、米韓合同演習「チーム・スピリット87」がはじまった。五月中旬までの三ヶ月、朝鮮半島は「演習」という名の「核戦場」と化する。同胞に核を向けて行きかうジェット機や戦車のこう音を民主主義と統一を願う韓国の人々はどのような思いで聞くのであろうか。この演習の期間中、日本にある米軍基地がフルに動くことはいまさら言うまでもない。そして自衛隊と米軍の共同演習が連動して行われるのもほとんど年中行事となってしまった。

GNP1%枠も突破して坂道をころげおちるように軍事大国化を深めるこの国のありようと、私たちがどのように動くのかを隣国の人々はじっと息をひそめてみつめているに違いない。

今国会では「スパイ防止法」上程の可能性も高い。この悪法を葬りさろう！　一%枠突破ースパイ防止法ーチームスピリットーそしてトマホーク。これらは一つの状況を形作っていて、私たちにもうひとつの「団結の精神（チームスピリット）を呼びさますことを求めているのではないか。

オモニ「共感平和版画集」（ほるぷ社 1983年刊）より

INTERNATINAL DISARM THE SEAS WEEKEND

海の軍備撤廃のための国際同時行動

港で、あるいは貴方の町で！ ★5月29～31日

トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員（月間会費）
団体　1口　2000円
個人　1口　1000円

●参加会員（月間会費）
団体　1口　1000円
個人　1口　500円

●通信会員
年間2000円

あなたも仲間に！

●レポート

反核国際シンポジウム
人間の鎖は太平洋より大きい

編集部

1987 2.1

太平洋の軍事化に反対する！
非核・独立・非同盟の太平洋をめざす！
日本列島を本当の非核地帯に！

「海の軍備撤廃を！太平洋運動」の前身である「反トマホーク太平洋運動」が発足して丸二年が経とうとしている。トマホークの太平洋配備を契機に、核艦船の入港を止める事を通して太平洋を非核の海にしようという各国の運動の間に緩やかなネット・ワークが形作られはじめた。各地の運動の自立を大前提に、それらがどのようにして互いに繋がり、支えあい、共通のプログラムを共有出来るのかをゆっくりと追求してきたのがこの二年間であったといえるだろう。「反トマホーク全国運動」も当初からこの「太平洋運動」に積極的にコミットしてきた。たとえば昨年の「ニュージャージー入港事態」に「太平洋運動」からもたらされた核搭載データが私たちの反対運動に重要な手掛りを与えてくれたことはまだ記憶に新しい。

一昨年十二月のフィリピンでの第一回運営会議に続く第二回運営会議が二月二日から六日にかけて東京で開かれた。各国から草の根の第一線で頑張っている運動家が集まるまたとない機会である。「地球的に考え、地域で行動しよう」という立場で多くの人々と対話を深められる場を設けよう。日本の運動にとって貴重なヒントと励ましを与えてくれるに違いない。こうして、このシンポジウムが実現した。

アジア太平洋資料センター、日本カトリック正義と平和協議会、日本キリスト教協議会・平和委員会、反核パシフィックセンター東京、平和事務所、トマホークの配備を許すな！全国運動、の六団体の呼びかけで昨年十一月から準備が進められてきた。

各国から力溢れるレポート

二月一日、会場の東京・全逓会館九階ホールには約二百人の参加者が集り、食事時間をはさんで約五時間にわたって熱心に海外からの報告に耳を傾け、討論を行なった。参加者は年齢層、性別いづれも首都圏での「反トマ運動」のいつもの集りにくらべてかなり幅広いという印象。地方からの人や在日外国人の参加も目立った。

アニメ「百番目のサル（英語版）」の上映に続いて第一部は各国からの現状報告。報告者は梅林宏道（反トマホーク全国運動代表）エルモ・マナパット（フィリピン・非核フィリピン連合事務局長）、リニー・ウェストラ（ニュージーランド・「平和をめざすキリスト者前議長）、ニック・マクレラン（オーストラリア・非核独立太平洋運動）、フィル・エスモンド（カナダ・大ビクトリア軍備撤廃グループ）、ジュディス・デナーロ（フィジー・FANG…フィジー反核グループ）、鄭敬謨（韓国・雑誌「シアレヒム」主幹）、ネルソン・フォスター（ハワイ・海の軍備撤廃を！太平洋運動国際コーディネーター）の各氏（発言順）であった。

いづれも政府レベルから草の根運動に至る各国の政治状況・運動の現状を丁寧に論ずる力溢れるレポートであった。太平洋はいま、急速な軍事化の波の中にあり、米ソ両大国の政治的葛藤は新しい「冷戦」とも呼ぶべき様相を呈している。しかし、各地の非核を目指す人々の運動は、そのありかたこそ多様だがそれぞれのやり方で十分にこの状況に「噛合った」ところまでいっている。あるいはその可能性を持っている。そのことが強く印象づけられた。

具体的な運動でつながろう！

夕食時にはボランティア・グループの心尽しの料理を味わいながらいくつもの交流の輪が出来た。

第二部の討論では、国際的な連携のための具体的てだて、「レイキャビック会談」決裂への評価、各国の運動の基盤に横たわる民衆のアイデンティティとナショナリズムの関係など重要なテーマが話合われた。

最後に日本の防衛費GNP一％枠突破への抗議文を採択。また五月二十九日から三十一日の「海の軍備撤廃のための国際共同行動」には各地で行動を起こそうとの呼びかけに賛同の拍手を贈って閉会した。

「国際会議」というと、とかく一種セレモニー的な居心地の悪さを感じがちだが、演壇も設けず円形に配置された座席での頭を付合わせながらの討論は随分と和やかで、各国の運動をより身近に感じることが出来た。そしてその分だけ、太平洋の軍事化の「最先頭」にあるこの日本での具体的な運動で太平洋の人々と繋がることの重要性を痛感させる集いであった。（シンポジウムの内容は別途なんらかの形で報告される予定である）

●太平洋運動運営会議

「太平洋運動」の運営会議は早稲田セミナーハウスに場所をうつして二日から六日まで行われた。二段ベッドの八人部屋で文字通り寝起きをともにして連日朝から深夜まで熱心な討議。ホスト役として議長も勤めた梅林さんに聞いた。

●太平洋運動をどんな運動にするのか。かたくいえば「戦略論議」がおおきなテーマだった。そのためにはまず、各国の政治状況や、運動の状況を理解しあうことから始まった。各国からの参加者は何もその国を「代表して」いるわけではないのだから議論が我田引水にならないためにも是非とも必要なことだった。政府と民衆の関係、運動体相互の関係について率直に報告しあうのに相当な時間をさいた。

●抽象的な連帯の時代は終わったというのが皆のおもいだった。引きつづき核艦船入港阻止を共通のテーマにしようというのが結論だった。このテーマが実際に米国の核戦略の展開を脅かしていることが各国の状況を聞いてほんとによくわかった。

引きつづき「核艦船拒否」を共通のテーマに

●日本の軍拡や運動の状況への関心が誰の口からも強くかたられた。「日本の軍拡の危険性について実証的・論理的に海外に向かって説明すること」「非核自治体の現状についてのキチンとした分析を」この二つが宿題として残った。

●国際的連携の具体的てだてとして、代表者の会議ではなくて運動家が一ヵ月位滞在して現地の人達と一緒に活動する。新しい人的交流プランが提案されてそれは良いということになった。ぜひとも実現したいプランだ。

●内容の詳しい報告はカナダから帰ってから…。（梅林さんはカナダのグループに招かれて各地を歩いている。二月二十五日に帰国の予定）

（文責　編集部）

これが核トマホーク装備艦リスト

＊印は太平洋艦隊所属

★2月1日、東京での「反核国際シンポジウム」に先立って発表されたトマホーク搭載艦リストである。「海の軍備撤廃を！太平洋運動」の研究者ネットワークによって突止められた。すべて米議会での高官の証言、海軍の文書など複数以上の資料でチェックした極めて確度の高いものである。

水上艦

BB：戦艦　CGN：原子力推進ミサイル巡洋艦　CG：通常型推進ミサイル巡洋艦　DD：駆逐艦

番号	艦番号	名称		
1	BB 61	アイオワ	装甲箱型発射台	
2	BB 62	ニュージャージー	〃	＊
3	BB 63	ミズーリ	〃	＊
4	CGN09	ロングビーチ	〃	＊
5	CGN38	ヴァージニア	〃	
6	CGN39	テキサス	〃	＊
7	CGN40	ミシシッピー	〃	
8	CGN41	アーカンサス	〃	＊
9	CG 52	バンカーヒル	垂直発射台	＊
10	DD974	コントグラッス	装甲箱型発射台	
11	DD976	メリル	〃	＊
12	DD979	コノリー	〃	
13	DD983	ジョン・ロジャース	〃	
14	DD984	レフトウィッチ	〃	＊
15	DD989	デヨー	〃	
16	DD990	インガーソル	〃	＊

この他、調査によれば二隻の駆逐艦がトマホーク発射出来るよう現在改造中である。

				改造開始時期
1	DD963	スプルアンス	垂直発射台	1986. 6
2	DD991	ファイフ		1986.10

太平洋配備では　水上艦9隻、潜水艦8隻

潜水艦

最初の2つ、艦番号653、654はスタージョン級　他はロサンゼルス級

番号	艦番号	名称	発射台の種類	
1	653	レイ	魚雷発射管	
2	665	ギターロ	〃	＊
3	688	ロサンゼルス	〃	＊
4	689	バトン・ルージュ	〃	
5	690	フィラデルフィア	〃	
6	701	ラホヤ	〃	＊
7	703	ボストン	〃	
8	704	ボルチモア	〃	
9	705	シティ・オブ・コーパス・クリスチ	〃	
10	706	アルバカーキー	〃	
11	707	ポーツマス	〃	＊
12	708	ミネアポリス	〃	
13	711	サンフランシスコ	〃	＊
14	712	アトランタ	〃	
15	713	ヒューストン	〃	＊
16	714	ノーフォーク	〃	
17	715	バッファロー	〃	＊
18	718	ホノルル	〃	＊
19	719	プロビデンス	垂直発射台	
20	720	ピッツバーグ	〃	

この他5隻の潜水艦にトマホークが装備されていると思われるがまだ確認できていない

1	702	フェニックス	魚雷発射管	
2	709	ハイマン・G・リックオーバー	〃	
3	716	ソルト・レイク・シティー	〃	＊
4	710	オーガスタ	〃	
5	717	オリンピア	〃	＊

各地から

上瀬谷基地は動いている

そして反基地市民も

ヨコハマ
田巻一彦（上瀬谷基地はいらないウドの会）

一月十八日の午後、私たちはいつもの一定例基地監視コース」を歩いていた。何時もとちがうことといえばその日はオーストラリアからのお客様、ピーター・ジョーンズさんが一緒だったことだった。一定例基地監視」は二月に一回、日曜日の午前にやることになっているのだけれど、こんなふうにお客様をむかえて案内がてらに見てまわることも多い。そしてこんなときに得てして新しい事を見付けてしまったりするものだ。

今回もその「発見」があった。基地の外周約六キロのコースをほぼ一周して南の端にあるオペレーションエリアの見渡せる所にやってきた私たちは意外な光景にでくわしたのである。その場所からは昔日本海軍の地下魚留工場があったという覆土の上に艦隊衛星通信用のヘリカル・アンテナがよく見えるのだが、そのアンテナのそばに迷彩服の兵隊が「待ってました」とばかりに現われたのだ。手にはライフル銃。そしてその銃を「ほら見ろ」と言うような素振りで動かしながらこちらをうかがっているのである。

なんだそんなことかと各地の反基地運動の人々から笑われるかもしれないが上瀬谷ではこれは決して小さくない「事件」なのだ。二十年も基地の近所に住んでいる人に聞いてもそんなのは初めてだといわれた。ふだんは外からみている限りでは軍人の姿を見付けることさえ難しい場所なのである。

最近、警備が厳しくなったなという実感は前々からあった。敷地の外からの監視なのにMPの車につきまとわれたりといった経験も一度や二度ではない。やはりフェンスの向う側ではなにか重大な変化が進んでいるような気がする。そしてその実感はおそらくそう的はずれではないだろう。

◎対潜水艦作戦の指令中枢が…

私たちと一緒にこの「事件」にたちあったピーター・ジョーンズさんはオーストラリア西海岸にある米海軍のノースウェスト・ケープ通信基地（潜水艦むけの送信基地）の撤去運動に取組んでいる人だ。こんな住宅地のすぐそばの畑のどまんなかに巨大なアンテナが並んでいる光景がピーターさんにはまず驚きだったらしい。そして彼との討論の中で私たちが知ったのは遠くはなれているけれども上瀬谷とノースウェスト・ケープは「海の軍事化」という一つの状況のなかで真直ぐに繋がっているという事実だった。

「米海軍上瀬谷電波受信施設」というのがこの基地の正式名称である。横浜市の北西の端宅地開発の波に割込むように広がる二百万㎡あまりの敷地に点在する大小さまざまなアンテナ群のほとんどが受信用なのだからそのとうりといえばそのとうり。しかし上瀬谷の役割はそれに止まるものではない。

ここが果たしている役割は「受信」のほかに大きくいって二つある。そしてこれらこそが上瀬谷をたんなる「施設」ではなくて「基地」たらしめているというのが私たちの認識だ。

その一つは、ソ連や朝鮮民主主義人民共和国の通信を傍受するスパイ活動である。三沢に本隊がある「米海軍保安群上瀬谷分遣隊」がその活動の中心と思われる。たとえば昨年の「金日成死亡説」のおりには明け方の五時ころ非常サイレンが突然なりわたって近所の人々を驚かせた。大韓航空機事件のときにも同じようなことが起こったそうである。

もうひとつ。これが太平洋の核状況との関係で今もっともホットな事柄なのだが、対潜水艦作戦（ASW）の指令中枢がこの基地の中にあることは間違いない。三沢・沖縄・フィリピン・グアムのP3C対潜哨戒機部隊を指揮する「第七艦隊哨戒航空団指令部」やソ連潜水艦の音紋情報を集め解析していると言われる「西太平洋艦隊海洋監視情報施設」がここには居るのだ。

◎核戦争対応の増強計画

上瀬谷に大規模な増強計画が持上がったのが八五年のこと。「艦隊作戦統制センター」と称する計画を米海軍は議会に提出したのである。その中身は「危機状況下で第七艦隊の指揮・統制を行なうための」施設立替え計画であり、核爆発によっておこる電磁波パルスから通信機器を保護する設備をふくむものであった。結局議会はこの計画のための予算を承認せず宙にういた状態になったと思われたが、その後米国が日本の「思いやり予算」支出を求めていることがわかったのである。当時日本政府はそれを拒否したと伝えられたがそれは怪しい。米国の海洋核戦略にますます深くコミットしつつある日本の軍拡の実態をみれば「予算支出」踏切る可能性大いにありといわなければならない。

いずれにせよ上瀬谷が今大きな変身を遂げようとしていることは確かだ。冒頭の「ライフル事件」もその具体的現われだと思う。目には見えにくい基地増強の動きをなんとか見える形でつかまえようというのが私たちの最大の関心の一つなのである。

● ● ●

「ウドの会」も生れて一年半。基地のすぐ近くに住む人、市内の各所からあるいは東京から集まってきた人、主婦、学生、勤め人、老若男女…。月に一度集まっては、基地の事を勉強する。それぞれの反基地、反戦、反核の思い語りあう。あるいは子供の手を引いてピクニック気分で基地を見にいく。まだまだ方向も定まらぬゆっくりとした足取りだけれども、「基地をなくす」本物の人々の力を蓄根付かせたいとの思いは一つだ。

つい最近になって実に初めての地域ビラまきと「基地監視報告集会」をやった。五月の末には何か面白い行動を。基地で遊ぼう！会、写生大会、オリエンテーリングやウォークラリー、いや、いっそ横須賀まであるいてしまおうなどという「強硬意見」まで飛出して春はなかなか面白くなりそう。

（追伸）今日も基地の中で新しい工事を見付けた。とにかくそこらじゅうを堀かえしているのだ。全く目が離せない。

●宣伝を一言。スライド「気がつけば核基地」（二五分）有ります。貸出し料千円。スクラップと公式資料を集めた資料集も作りました。こちらは百円。どうぞご利用下さい。

＊上瀬谷のウド
米軍は「電波受信の邪魔になる」といってビニールハウスも立てさせない。そこで農家の人々が取組んだのがウドの地下栽培だった

何をめざす？チーム・スピリット87

―「北進」実戦予行演習か

韓桂玉

遅れた演習日程の発表

昨年十二月の朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）最高人民会議（国会）で金日成主席の、南北の緊張緩和と戦争防止のための提案があり、さる一月十一日、北朝鮮の李根模国務総理と呉振宇人民武力相の南朝鮮側に対する「南北高位政治軍事会談」の提案があり、それに対する米・韓側の対応が注目されていたが、やはり今年も米韓側は「チーム・スピリット八七」合同演習を強行した。

ワシントンとソウルでは、米韓合同軍事演習「チーム・スピリット八七」が二月十九日から五月初旬まで、朝鮮半島およびその周辺で行われると、一月二十二日同時に発表された。

ソウルの米韓連合軍司令部スポークスマン ウオーラー大佐によると、その規模は「駐韓米軍および米太平洋軍司令部傘下部隊、米本土兵力と韓国軍など、計二十余万、それに一個航空母艦船団が参加」し、目的は「海外増援軍の引き受け、輸送集結、運用および復帰を含む連合・合同作戦の訓練を通じ、米韓軍の防衛態勢を強化し、両軍の相互防御作戦能力と協力の増進にある」と述べた。

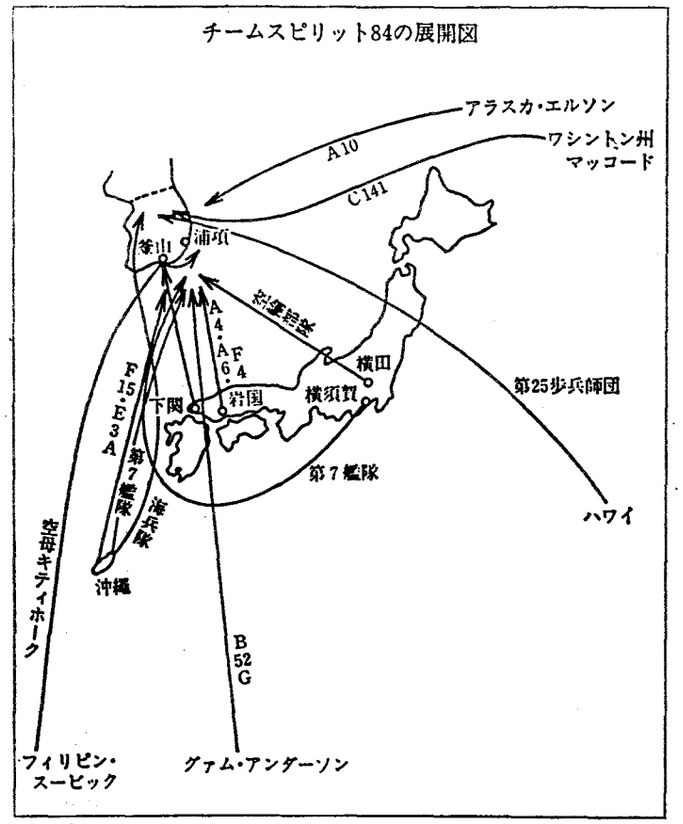
だが、それ以後は何の発表もなく、例年そうであるが、演習のシナリオや具体的な内容については発表がなく、断片的な報道や前後の経緯を総合、分析するほかない。そこで今回は、レーガン政権の軍事報告など一連の軍事政策や米韓側の発言、韓国の現情勢などとの関連から分析してみる。

エア・ランド・バトル・ドクトリンと「リュック核攻撃」

①「チーム・スピリット」演習は今回で十二回目であるが、これまでの最大規模が二十万九千人であるから、今年もほぼそれと匹敵する最大規模になりそう。また期間にしても、昨年より約十日ほど長く、文字通り「史上最大」になるものと見られる。

②レーガン政権は登場直後に「同時多発戦略」を採用し、その後の「海洋戦略」による「第二戦線」の展開構想は、ヨーロッパ、あるいは中東の有事においてさえ朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）に核先制攻撃を加え「心臓部を直接叩く」というシナリオになっている（一九八四―八八年米国防指針）・それは、レーガン政権が韓国を、核攻撃をも辞さない「死活的利害地域」に格上げした八三年ごろからの基本方針となっている。

チームスピリット84の展開図



その危険性は、この演習の総指揮官が米軍司令官リブレー大将（米第八軍司令官、在韓米軍司令官、米韓連合軍司令官、在韓国連軍司令官の、四つの帽子をかぶっている）で、朝鮮半島における核使用の権限を握っているばかりではなく、韓国には一千発余の核兵器と運搬手段が常備されているのが「エア・ランド・バトル・ドクトリン」（空地戦教理）と「リュック核攻撃」のパターンである。八三年から「チーム・スピリット」演習に適用している空地戦教理は、ディープ・アタック（縦深攻撃）を基本とし、前線と同時に前方深く縦深地域一帯を、核を柱にした航空火力、砲兵（地上）火力、機動部隊を一体化した電子戦で強打を加えるというものである。

朝鮮半島に即してみれば、南北の軍事境界線を前線（接点）とし、その縦深地域は、開城（ケソン）から平壌（ピョンヤン）をこえて、はるか後方の鴨緑江、豆満江の国境地帯までを含む。つまり、空地戦の教理は、開戦と同時に前線のみならず、北朝鮮の奥深くまで全面的な核攻撃によって一挙にせん滅しようというのである。米韓連合軍の短期決戦構想「七日間戦争計画」がいまや「三日間戦争計画」へと短縮されているのは、まさにこの

沖縄軍用地20年強制使用反対

命どう宝 強制使用許さず

沖縄には「命どう宝」（命こそ宝）という反戦の思想がある。そして自らの土地を戦争のため、人殺しのためには使わせないと、軍用地提供の契約を拒否している"反戦地主"がいる。
沖縄一坪反戦地主会は、基地の中に囲われている反戦地主の土地を取りもどし、"生活と生産の場へ"変えてゆこうという運動です。沖縄軍用地の20年強制使用―安保体制の固定化に反対して、多くのみなさんの反戦地主への連帯を訴えます。

＊一坪反戦地主募集中です。

問合せ連絡先 沖縄一坪反戦地主会関東ブロック
東京都北区上十条3-29-1 大林マンション ☎03-905-1579（木曜夜）

ことを実証している。

もう一つは「リュック核攻撃」構想である。今年の国防報告や軍事報告では、前進展開戦略とともにLIW「低水準戦争」を強調している。これは「敵の心臓部を叩く」戦法の一つで、リュック核（小型化された戦術核）を背負い、ひそかに相手側の後方深く、選定してあった拠点（軍司令部や重要施設など）に潜入して仕掛け、リモート・コントロールによって爆発消滅させたり、要人をら致しようというもの。八五年の「チーム・スピリット」からこれが適用されている。

韓国陸軍参謀総長が日米共同演習を視察

④今年の米国防報告でSDI（戦略防衛構想）とともに強調されたのがCDI（通常防衛構想）である。これは、各種の核兵器で決定的な優位に立てないレーガン政権が、優位であると自認する最新のハイテクを利用した兵器での戦争で優位を確保しようというもの。

CDIは現在、主としてヨーロッパを対象としているが、米国防省筋は「当然、朝鮮半島の有事の際にも活用でき、日本の対ソ戦略にも関係してくる」と言明している。恐らく今年の「チーム・スピリット」では、この構想が具体化されるのではなかろうか。

⑤この演習で、つねに大きな比重をしめるのが、日本の役割である。それは、沖縄、岩国、横須賀、横田など日本のすべての基地が米軍の出撃、中継、補給基地として全面的に利用されるだけではなく、時を同じくして米軍と三自衛隊の共同演習が行われ、北東アジアを戦域とした一つの戦争シナリオによる、事実上の米日韓合同演習となっているからである。

昨年、北海道での米日共同演習に在韓米軍のF一六が参加したのに続き、今年は二月中旬～三月上旬の「日米共同積雪寒冷地演習」（北海道・東北一帯）に、韓国の朴熙道・陸軍参謀総長が来日、視察するのもそのあらわれであろう。また、昨十二月の栗原防衛庁長官の対馬基地視察、佐世保への米揚陸強襲艦の配備、米韓、米日間でのインターオペラビリティ（相互運用性）の強化などは、いずれもアメリカ主導の下、米日韓軍事一体化への動きで、内外から関心がよせられている。いずれにしても朝鮮半島の緊張はこれによって一層高まり、南北対話にも少なからぬ影響を与えそうである。

（アジア動向研究会）

300人で行こう！
三宅島アクションボート'87
参加者大募集！
●日程●
3月6日(金)夜10時
東京・浜松町 日の出桟橋発
～3月8日(日)夕方7時東京着
●費用● 18,000円(小児割引有り)
2等往復船賃、三宅島での民宿代（7日の朝食、夕食、8日の朝食含む）、三宅島一周のバス代資料代等

よびかけ団体
平和事務所(815-8547)、トマ喰虫社(498-6095)、ピースポート99 (367-0981)、婦人民主クラブ(402-3244)、日本はこれでいいのか市民連合(379-0043)

●出港直前集会
3月6日(金) pm6:00～9:00
三宅島に基地をつくらせない東京集会 於：芝青年会館
(浜松町歩10分) ☎03-454-4565

お問合せ・申し込み
三宅島アクションボート'87実行委員会
渋谷区千駄ヶ谷4-29-12-305
☎03-423-0185
(平日 正午～午後6時)

海外トピックス

オーストラリア「平和船団」の活躍を伝える現地紙から

SYDNEY MORNING HERALD 86.9.30 （訳 編集部）

反核運動家イアン・コーエン "へさき"を摑む

オーストラリア海軍の創立七五周年記念式典が行われた昨日、黄色いサーフ・ボードに乗った一人の反核運動家が、五分間にわたって米艦オルデンドーフのへさきを摑みながら波乗りを演じてみせその場をさらった。

彼の名はイアン・コーエン。ブロークン・ベイ在住の三五才。警察やボランティアのパトロール船の網の目をかいくぐってシドニー湾に入港してきたこの米国の駆逐艦まで漕ぎよせた。同艦とともに入港したのは、ほかに米、カナダ、英国、オーストラリアの４０隻である。

オルデンドーフから手を話したコーエン氏は、仲間の活動家である北海岸平和船団メンバーの操縦するはしけに乗移ったが、警察の巡視艇がはしけを取囲んだ。するとコーエン氏はボードを持って海に飛込み逃げようとした。

彼は数分間にわたって必死に漕ぎ回ったが結局警察のゴムボートに引寄せられた。彼は港湾管理者の指示に従わず、艦船の進路を妨害したかどで逮捕・告発された。

コーエン氏は一週間あまり前にもブリスベーンに入港した英海軍の軽空母イラストリアスの船体にしがみつくという事件を起こしている。

コーエン氏は保釈された直後の昨夜、つぎのように語った。「私はサーフィンを人々が私たちの抗議に注目するための道具として使っている。これは皆が考えるほど危ない行動ではない。ゆっくり動いているビルディングを摑むようなものさ。うまく摑んでしまう前に船の通ったあとの波に叩きつけられることさえ注意すればね」

コーエン氏は元は高校の歴史と国語の教師をしていたが現在は自然保護団体のフルタイムのボランティアをしているとのこと。ベテランのサーフ・ライダーである。

オルデンドーフは昨日の抗議行動の最大のターゲットであった。同艦は当日入港した艦隊のなかで核兵器搭載可能な六隻のうちの一隻である。警官隊とデモ隊のあいだの衝突も予想されたが逮捕者は三人にとどまった。

（以下要約）

この日、シドニー湾には約百隻抗議船が繰りだした。また地上では約二百人のデモ隊が終日の抗議行動。天候は雨、降ったり止んだり。強風。

［付記］このあと十月一日には米戦艦ミズーリがシドニーに入港した。コーエン氏の行動に勇気づけられた六人のサーファーがそのへさきを摑もうと挑戦したが警官に阻止された。（編集部）

各地「短信」

［横田］今年も三多摩の労働組合や市民団体を中心にチーム・スピリット八七反対三多摩実行委員会が結成され、米軍の中継・出撃拠点横田基地を監視する行動が開始されている。

一月二十四日には、「許すな！チーム・スピリット八七　結ぼう朝鮮・韓国民衆とのきずな　三多摩集会」が行われ、韓桂玉氏が講演した。二月一日には、第一波の抗議行動がとりくまれ、約八十人が基地に沿ってデモ。二月十六日からは、例年のように毎日の基地監視行動が行われている。

三多摩実行委では、この間、沖縄への交流団派遣、地域の連續学習会などにとりくみ、三月二十九日には第二波の抗議行動を行なうことになっている（午後一時・福生公園、青梅線牛浜駅下車）。／連絡先　全逓西多摩支部（〇四二五・九五・〇五九三）　トッパンムーア労組（〇四二五・五三・一二六六）

福生市民連合（〇四二五・五一・八九〇六）

［横須賀］横須賀にある住友重機追浜・浦賀両造船所で、五百七十七人の首切り・合理化提案が、昨年十二月に会社側から出された（両造船所の従業員は千九百人）。構外へ出向中の人や下請け労働者までいれると千七百人の首切りとなる。とりわけ第一組合（全造船浦賀分会）では三五％の労働者が辞めさせられる対象となる。

こうした会社側のやり方に抗議して「住友重機の首切り反対！」市民行動が結成された。首切りに反対し、闘う第一組合を守る運動は、住友資本の軍需生産をストップさせることをめざす闘いでもある。

ヨコスカ市民グループはこの運動に積極的に参加している。一月二十九日には「住友重機の大量首切り＝全造船浦賀分会つぶしを許さない！　市民集会」が開かれた。

その他、横須賀では、二月二十二日に「国家秘密法」許すな市民集会、三月十五日にはシンポジウム・ミッドウェー母港のすべて、と精力的な活動がつづけられている。／「市民行動」連絡先　〇四八五・二五・〇一五七

［呉］「トマホークの配備を許すな！　呉市民の会」は、一月二十七日、反核国際シンポジウムのために来日したニュージーランドのリニー・ウェストラさんを招いて交流会を行なった。

リニーさんは翌二十八日、呉市役所を訪れて、「呉市は核廃絶宣言をしているのに、核搭載艦船が呉港に入港したと聞いた。入港は断るべきではないか」「被爆県にある呉市が核搭載艦の入港を認めたことに驚いている。私たちといっしょに平和運動をしましょう」と呼びかけた。

その他、呉でも、二月下旬に国家秘密法に反対する集会が行われる。この集会では、弁護士による劇『幻の特ダネ』が上演される。

また三月下旬には、チーム・スピリット反対行動が予定されている（連絡先／「トマホークの配備を許すな！　呉市民の会　〇四八三・二一・二四一四）。